

ROTARY CLUB OF OMIYA WEST



2018～2019 年度 大宮西ロータリークラブ週報



創立：1963年3月22日 会長 新井 清太 第2593例会 2019/ 3/18
例会場：パレスホテル大宮 幹事 新藤 栄介 発行日 2019/ 4/ 1
例会日：月曜日 12:30～13:30 公共イメージ向上委員会 川井 理砂子 週報当番 川井 理砂子

会長あいさつ

「ナジム君最終例会」 会長 新井 清太

今日はジャーナリスト・ノンフィクション作家の門田隆将様をお招きしての卓話ということで変則的とはなりますが、時間を30分繰り上げて例会を行いますので宜しくお願い致します。



さて3月10日(日)には、大宮西ロータリークラブ主催による青少年空手道大会を開催致しました。当日お手伝い頂きました皆様、大変ありがとうございました。私も、久しぶりに子ども達の真剣勝負、一生懸命空手に取り組む姿を見て大変感動いたしました。

そして、同日ラフレさいたまに於いて米山記念奨学生ナジム君の修了式が行われ、クラブからはカウンセラーの高橋直前会長、染谷副会長、新藤幹事、地区米山委員として内山会員、藤嶋会員が出席致しました。

ナジム君は本日が最後の例会出席となりますが、今夜18時よりここパレスホテルにて送別会を開催致しますので皆様ご参加お願い致します。ナジム君！一年間本当にありがとうございました。国に帰っても是非頑張ってください。

それでは門田先生のご講演を90分じっくりとお聞き頂きたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

お客様紹介 染谷 義一 副会長

ジャーナリスト・ノンフィクション作家
門田 隆将 様
米山記念奨学生
ムハマド・ナジム・ムハマド・シュクリ 君

幹事報告

幹事
新藤 栄介 会員



- 大竹庄藏会員より米山記念奨学金に大口の寄付を頂戴致しました。
- 今週23日(土)鉄道博物館ナイトミュージアムの移動例会です。
- 次週月曜日、25日は振替休会のため例会はございません。
- 次回の通常例会は4月1日(月)となります。
- 4月の例会予定表をボックスインさせていただきました。
- ハイライトよねやまをテーブル配布しております。
- 本日例会後に役員会がございます。

委員長報告

社会奉仕部門委員長 小林 政良 会員より
3/23(土) 鉄道博物館ナイトミュージアムについて

女子部会より
4/1(月) 駅前早朝清掃のご案内

ロータリーの旅を楽しもう！

事務局：さいたま市大宮区桜木町1-11-2 YK-12ビル4F
TEL. 048-871-8881 FAX. 048-871-8882
E-mail: west@rc-omiya-west.com HP: <http://rc-omiya-west.com/>



ゲスト卓話

ジャーナリスト・ノンフィクション作家

門田 隆将 様

日本と台湾
～苦難と友情の歴史とは～
台湾で英雄となった日本人弁護士



【卓話要旨】

1 圧倒的な親日国台湾

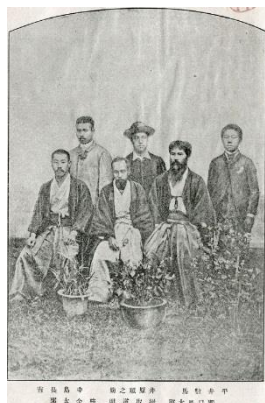
8年前に国中を震撼させた東日本大震災。その際、人口 2000 万人ほどの国でありながら約 200 億円もの義援金を集め、日本に寄せてくれたのが台湾である。台湾人に「好きな国」をアンケートすると、2 位に 10 倍以上の差をつけて、日本が圧倒的 1 位となる。親日国は世界にいくつかあるが、台湾人の親日家ぶりは群を抜いている。

2 今、親日国台湾が危機である。

その親日国台湾が今、危機である。昨年 11 月の地方選で、与党民進党が国民党に大敗し、与党主席は辞任にまで追い込まれている。中央政権でも与党民進党の下野は必死の情勢である。このような流れの中で、いよいよ台湾を事実上中国の一部とする動きが本格化していくのではないかと懸念されている。本日の卓話では、台湾が親日国となるに至った歴史的背景を探る。

3 芝山巖事件 (六氏先生)

1895 年、下関条約により台湾は日本に割譲され、日本の統治が開始された。当時文部省の学務部長心得だった伊沢修二は、教育の重要性を訴え、日本全国から集めた逸材 7 名 (教師となる) を連れて台湾に渡り、台北北部に芝山巖学堂 (小学校) を設立した。学校は、次第に地域住民に受け入れられるようになったが、当時の台北では日本の統治に反発する暴動が頻発しており、伊沢と 7 名の教師らも避難を勧められた。しかし、彼らは「我らは教育者である。身に寸鉄を帯びず」「死して余栄あり。実に死に甲斐あり。」と言って芝山巖を去ろうとはしなかった。1996 年、芝山巖の 6 人の教師と用務員は抗日ゲリラに惨殺された。しかし、彼らの教育に賭ける犠牲精神は「芝山巖精神」として人々の間に語り継がれた。なお、日本統治により、台湾の就学率、識字率は飛躍的に伸び、後の台湾の経済発展に大きく貢献することとなった。



4 湯徳章 (坂井徳章)

六氏先生とならび、台湾で語り継がれているのは、湯徳章にまつわる物語である。湯徳章 (日本名坂井徳章) は、日本人の父と、台湾人の母の間に生まれ、日本統治下の台南で生まれ育った。徳章の父は警察官であったが、日本統治に反発する暴徒に惨殺され、母が女手一つで育てた。徳章は、子供時代から記憶力がずば抜けており、成績優秀。学費のかからない師範学校へ進学するも、制服が買えずに咎められたことを機に自主退学。以後、炭焼きの仕事しながら学び、19 歳で父の背中を追って警察官となる。その後、日本へ渡り中央大学予科に入学。文官高等試験司法科 (司法試験) および行政科に合格する。日本での活躍を期待されながらも台湾に戻ることを選んだ徳章は、台南に弁護士事務所を開設した。第二次世界大戦の終戦後、日本の統治が終了し、中国国民党の統治が始まった。国民党軍は台湾国内の財産を本土へ送るなどしたことから台湾の人々から反感を買っていた。1947 年 2 月 28 日、闇タバコを販売していた女性に取締の役人が暴行を加えた事件を発端として、中国国民党支配に対する抗議デモが台北で起きる (2. 28 事件)。このような動きは台湾全土に広がり、徳章の居た台南市でも名門学校の学生たちが蜂起を計画していた。徳章は、このような学生たちの集会に乗り込んでいき「相手に弾圧の理由を与えてはならない。」として思いとどまらせ、台南の学生たちを国民党軍の報復から守った。後日、徳章自身が国民党軍に捉えられ、拷問を受けるが、一人の学生の名も口にするとはなかった。最終的に、徳章は見せしめのため市民の前で処刑されることとなるが、徳章の物語は台湾の人々によって後世まで語り継がれ、処刑場となった大正公園は湯徳章記念公園と名付けられ、徳章の命日である 3 月 13 日は「正義と勇気の日」に定められている。



「湯徳章記念公園」にある徳章の胸像

ナジム君送別会

